

未来投資会議（第20回）後の
茂木経済再生担当大臣記者会見要旨

- 日 時 : 平成30年10月22日（月）18:33～18:43
- 場 所 : 中央合同庁舎8号館1階S101・103 会見室

1. 冒頭発言

本日、未来投資会議を開催し、安倍内閣の最大のチャレンジと位置づけております全世代型社会保障に向けた改革について議論いたしました。

三点ありますが、第一に、高齢者雇用促進についてであります。65歳以上への継続雇用年齢の引上げについては、70歳までの就労機会の確保を図り、高齢者の希望・特性に応じて、多様な選択肢を許容する方向で検討することとなりました。

来年の夏に決定する予定の実行計画において、具体的制度化の方針を決定した上で、労働政策審議会の審議を経て、早急に法律案を提出する方向で検討することとなりました。私と根本厚生労働大臣をはじめ、関係閣僚は、これに向けた検討を進めてほしい、と総理の指示があったところであります。

第二に、中途採用の拡大、言ってみますと、人生の中で様々なキャリアがあって、その途中のキャリアで採用するという意味では、中途採用、キャリア採用と言ってもかまいませんが、この拡大・新卒一括採用見直しについてであります。本件については、まず、企業による評価・報酬制度の見直しが必要であります。政府としても情報公開が進んでいない企業に対して、中途採用比率の情報公開を求めるといった対応を検討すること。加えて、中途採用、キャリア採用に熱心な大企業を集めた協議会を創設し、運動を展開することといたしました。

第三に、病気の予防についてであります。国民健康保険や健康保険組合の保険者が予防措置を講じることに對するインセンティブの大幅な強化を検討すること。同時に、介護の予防についても、介護事業者に対して、介護の予防に對するインセンティブ措置の強化を進めること。

以上について、総理から、年末の中間的な報告に向けて、検討を進めるように指示があったところです。

私の方からは以上です。

2. 質疑応答

（問）お話のありました、中途採用協議会についてお尋ねしたいのですが、大臣として今

後期待していく論点とか、重視する論点はどういうものか。また、初回会合の目途ですとか、来年の夏に決定する3か年の工程表に、成果をどんなふうに活かしていられるお考えか。たとえば報告書などの形を想定されているのか。現時点で想定されることがあればお聞かせください。

(答) 冒頭申し上げましたが、中途採用という言葉。これもいろんな受け取り方があると思うんですけど、人生のどういう段階にあっても、仕事についてからでも、また自分の活躍の場が見つけれられる、こういった意味での中途採用、キャリア採用についてですね、社会全体の機運を高めていく、こういったことは極めて重要だと思っております。それが当たり前の社会を作っていく、こういった意味で、本日、総理から、総理自身が先頭に立って運動を展開していきたいので、産業界のご協力をよろしく願います、こういう話があったところでありまして、今後の進め方、報告書をまとめるというよりも、機運をどう醸成し、それが一般化していくかということが重要だと思いますが、いずれにしても事務局を担っていきます、厚労省・経産省において考えると思しますので、そちらにお問い合わせいただければと思います。

(問) 雇用継続年齢の引き上げについて質問ですけど、今日の総理挨拶で、70歳までの就労機会を確保できるように、多様な選択肢を許容するというコンセプトのお話がありました。さらに、来年の夏に制度決定をしたのちに、労政審で議論の上、早急に法律案を提出という目標も示されましたが、対象となる法律は高年齢者雇用安定法などが想定されると思いますが、法改正案の提出目標というのは具体的に、来年の秋の臨時国会であったり、再来年の通常国会だったり、目標は定めてあるのでしょうか。

(答) 今の御質問の中で、ほぼ正確におっしゃっていただいたんですけど、1点だけ、具体的制度化の方針。来年の夏までに決定するのは、具体的制度化の方針ということになるわけでありまして、それはまさに実行計画を作るわけでありまして、その実行計画には工程表がついたものと、こうする予定でありまして、その工程表の中でどう記載するか今後未来投資会議で検討することになってまいります。来年の夏に制度化の方針を決定するので、来年の夏の段階で法律ができているということじゃない。